



地区で使える制度

●問い合わせ 役場総務課まちづくり推進室
☎ 096(293)3111

地区担当職員制度

町内の行政区にそれぞれ2人から3人の町職員が担当として配置され、町と地域のパイプ役として町の制度の説明や、地域の困りごとの手助けなどをすることができる制度。利用のためには区の代表者からの要請が必要。

地域づくり活動支援補助金

地域住民同士の顔の見える関係作りを目的に行う地域の特性を生かした自主的な地域づくり活動について交付する補助金。

主に行政区、組に対して出しているもので、地区の清掃活動やスポーツ大会などへの補助などを行っています。

相談できる行政があること

教育分野や護川小学校コミュニティスクールなど町のさまざまな活動に取り組んでいる千田さん。今回のまちづくり懇談会では大津町ボランティア連絡協議会の会長という立場もあり、アドバイザーとして参加。

「今回の懇談会は画期的な取り組みでした。地域の人は問題があっても声を出して訴える機会は少ない。行政が話を聞いてくれる姿勢がまちづくりを加速すると思います。活動できている地域はもちろん。できていない地域にも手を差し伸べられる仕組みを一緒に作りたいです」

大津町ボランティア連絡協議会
会長 千田哲夫さん

第2回懇談会で使われた「アクションカード」は企画検討で生まれ、懇談会の中でのアイデア検討の力になった

大津町の地域への声を伝えるのは地域の担い手です



私たちの

ちいきのほんき

令和元年5月、8月、11月の3回にわたって行われたまちづくり懇談会。会には地域の中心となる人たちが参加しました。「大津町をより良くしたい」熱い思いを持った皆さんと、これまでの取り組みをご紹介します。

11月21、22日 大津キックオフ大会

地区を代表する総勢13人の皆さんに、行政区での新しい取り組みや既に取り組みをしている内容などを発表していただきました。2日に分けて行われた大会には合わせて約400人が参加しました。

上鶴南区の区長 吉永敏明さんは世帯数が増えている地域ならではの地域をまとめる方法を発表

ルールをきちんと説明することがくらしやすさにつながる



令和元年度 まちづくり懇談会の軌跡



11月

私たちはこうやって地区をよくしていきます！

8月



5月



第3回まちづくり懇談会のひとコマ

会を盛り上げるゲストとしてボランティアの皆さんから「三味線」、「落語」、「バイオリン」の披露なども行われた

11月に行った3回目は集大成。1、2回目で出た「困りごと」「解決策」の発表大会①第2回のアイデアで生まれた買い物弱者のための移動販売車②多くの人が参加してくれました③お忙しい中発表をいただいた地域の皆さん④さんかした感想やまちづくりへの思いをふせんに書いてみんなで飾るまちづくりの木

8月に行われた第2回のテーマは「就職相談会」。前回の5月を行政区囁託員、民生・児童委員、PTAの皆さん、地域福祉推進委員、町議会、地区担当職員（役場職員）が「行政区」という単位で集まり、役場の職員に困りごとを直接相談する今までになかった方法。普段できない困りごとの相談も飛び出した。

5月、令和元年度最初のまちづくり懇談会は困りごとの発掘でした。テーマで分けた日ごろの困りごとを「自分たちで解決できること」、「行政や企業の手助けがあればできること」に分けて出し合い、共有していきました。

令

和元年5月に始まった令和元年度まちづくり懇談会。

地域を牽引するリーダーが、行政区ごとにまちづくりを本気で考えるために集まりました。

困りごとを何とかしたい

仕事や家の用事が終わった午後7時。行政区囁託員、民生・児童委員、PTAの皆さん、地域福祉推進委員、町議会、地区担当職員（役場職員）が集まっていく。目的は、「地域の困りごとを何とかしたい」という思いでした。

第一回は、困りごとの把握。集まって話すのは、深刻なものも多くあり、北部、南部の地域の担い手不足問題。中部の子どもの交通問題など問題もさまざま。代表する人がおらず、話し合いさえできない地区もありました。

問題を持ち帰り、8月の第2回。地域の困りごとを受けて相談会が行われました。地域問題を解決するための方法がまとまったアイデア帳をもとに地域が集まり考える時間。

まるで就職相談会のように。会場内に役場のミニ窓口ができ、職員が親身になり、地域の皆さんが相談しやすい遊び心あふれる形に懇談会の最中は笑い声とアイデアがあふれていました。

「11月」発表会をします

そして、地域ごとに検討課題を持ち帰り、リーダーを中心とした「4者協議」をしてもらいました。最終的に地域を良くするアイデアを11月21、22日の2日間に分けて町生涯学習センター文化ホールで発表をお願いしました。地域を代表する13人の皆さん。地区の個性に負けず劣らない個性豊かな発表。「介護予防を地区で取り組む」「高齢者の見守りの花を飾ろう」などが出て盛り上がりしました。

これからのまちづくり

今回の懇談会で参加した人から聞こえたのは「町の本気を感じた」「寄り添う姿勢がうれしい」という声。一方でさまざまな問題で取り組みができなかった地域があったのも事実。しかし、町と地域と一緒に寄り添い出る力、「ちいきのほんき」はその逆境を跳ね返せるかもしれません。